

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900694
法人名	医療法人岩村外科胃腸科
事業所名	グループホームよしの里
所在地	愛媛県宇和島市吉田町魚棚 2 0 番地5
自己評価作成日	平成23年2月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・面会者や地域住民の方々に会う時には、笑顔で挨拶するように心掛けている。 ・利用者、また利用者の家族と信頼関係が築けていけるよう職員一人ひとり努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は利用者と公園の草引き当番の活動に参加されたり、又、ホーム便りを近所に配る際にも利用者と配っておられる。さらに事業所は、中・高校生の職場体験の受け入れや、高校教諭の認知症研修等にも協力されている。秋祭りには、七つ鹿や神輿が来てくれたり、亥の子には、地域の子も達が来て、元気な声でついでくれる。カラオケ・習字・コーラス等のボランティアの方の訪問も多い。毎年、地区の公民館にて、法人と合同でロビー展を開催されており、利用者の作品等を出品しておられる。 入居間もない頃は「面会に行くのと帰りたいのではないかと心配するご家族もいるが「できるだけ来ていただいた方が、ご本人の安心につながります」と説明し、お友達にも来ていただけるようお願いされている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームよしの里

(ユニット名) ユニット2

記入者(管理者)

氏名 中村竹子

評価完了日 平成23年 2月 2日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「家庭的な環境のもとであたり前に普通の生活を」の理念についての振り返りをミーティングなどで行なっている。「家庭ならどうするだろうか？」と考えながら理念に沿ったケアに努めている。 (外部評価) 事業所開設時に作成した理念のもと、事業所では利用者に「できるだけ自宅で居るような感じで時間を過ごしていただきたい」という思いをもって、利用者個々が地域と関わり、馴染みの人や場所ができるような支援に努めておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近くの公園の掃除や、地方祭の旗たてなど地域の方と共に行っている。また年に2回避難訓練の際、地域の方々にも参加して頂いている。年に2回発行する「よしの里だより」を利用者と共にご近所に配付したり、近くの店を利用したりして交流を深めている。 (外部評価) 自治会に加入されており、事業所には、回覧版や広報が廻ってきている。職員は、利用者と公園の草引き当番の活動に参加されたり、又、ホーム便りを近所に配る際にも利用者と配っておられる。さらに事業所は、中・高校生の職場体験の受け入れや、高校教諭の認知症研修等にも協力されている。秋祭りには、七つ鹿や神輿が来てくれたり、亥の子には、地域の子供も来て、元気な声でついてくれる。カラオケ・習字・コーラス等のボランティアの方の訪問も多い。毎年、地区の公民館にて、法人と合同でロビー展を開催されており、利用者の作品等を出品しておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、職員による研修報告を行ない学んだことを地域の方々に伝えたり、中・高生のボランティアが来て頂いた時は認知症についての講習の時間をつくり説明している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で、事業所の活動報告や職員研修の内容を報告すると共に利用者にも参加して頂き、ご意見を頂きながらサービスの質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議には、利用者・ご家族・地域の方・市の職員・他の事業所の方達にも参加していただいている。観月会や大掃除等の行事ごとと合わせて会議を行うことについては「参加しやすい」と感想をもらったようだ。又、ボランティアに来られる方からは「訪問日以外にも立ち寄ってもいいですか」と言ってくださり、野菜を持って来てくださる等、交流する機会が増えてきている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 管理者はネットワーク会議に参加し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 2ヶ月に1回、介護相談員が来られ、2～3時間ゆっくり利用者の話を聴いてくださっている。事業所では、市の認知症介護のモデル事業の一環で「徘徊模擬訓練」に参加されたが「徘徊役の知らない人を探すということは、声掛け等が難しい」と感じられたようだ。市と協力して年2回、グループホーム連絡会を開催されており、研修や事例検討をされている。先日の連絡会では「成年後見制度」について勉強され、管理者は、今後の制度の必要性を感じられたようだ。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ミーティングや研修会で学ぶ機会をつくり、鍵をかけない工夫をしたり、禁止されている具体的な行為について積極的に話し合っている。</p> <p>(外部評価) 転倒の危険がある方の居室には、利用者が見る位置に「一人で立たないでください。ベルを押してください」と書いた紙が貼ってあった。管理者は、職員に具体的な場面を捉えて指導されている。「転倒」について職員で話し合った際、トイレに行く時間の予測ができれば、防ぐことができたのではないかという結論が得られたようだ。身体拘束はせず、事故防止できるよう話し合い、ケアの工夫に努めておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修やミーティングなどで繰り返し学ぶ機会を作って、一人ひとりが虐待防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加して職員一人ひとり学ぶ機会をつくっている。また参加して学んだことをホーム全体で理解に努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、契約前に、本人や家族と十分な時間をとり説明している。ホームの中も良く見て頂き、雰囲気を感じて頂き、理解、納得して頂いた上で、契約を行なっている。また解約の際は話をよく聴き誠実に対応している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や家族が面会に来られた際に意見や要望をお聴きするようにしている。玄関には「ご意見箱」を設置している。また家族が気軽に意見が言えるような雰囲気作りに努めている。出された意見や要望については、職員間で話し合って改善するよう努めている。 (外部評価) 管理者が交替された際には、ホーム便りに写真入りで紹介された。年に2回の家族会や来訪時に、ご家族から意見を聞くようにされている。年末の家族会では、会議と合わせて事業所の大掃除を行い、職員は、ご家族とお話ししながら一緒に作業をされた。遠くに住むご家族には、電話で近況報告をされたり、来訪時には個人記録を見ていただき、ご本人の状況を伝えておられる。	「お世話になっているからこれ以上望んでは気の毒」等と思っているご家族もあり、ご家族が事業所のケアサービスについて、意見や要望を具体的に言い出せるような機会や雰囲気・場面作りにさらに工夫されてみてほしい。家族会の持ち方等についても、開催日や時間、内容等についてご家族の希望等をお聞きしてみてもどうか。利用する側であるご家族の声は、事業所をさらに良くしていくきっかけにもなる。さらに、評価結果は家族アンケートの集計表等も用いて、ご家族の声を聞く機会を工夫していかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者や管理者は毎月のミーティング、年2回の全体ミーティング以外にも普段より、意見や提案をひろいあげられるよう耳を傾けている。	
			(外部評価) 自己評価は、全職員で何項目かずつに分けて取り組み、ユニットごとに検討して管理者がまとめられた。管理者は、職員に、外部研修の受講や資格取得をすすめておられる。朝・夕の申し送り時や、月1回のミーティング時は、ユニットごとに職員で意見を出し合って話し合っておられ、年2回の事業所全体のミーティング時には、全体で取り組んでいることについて話し合うようにされている。今回は、記録・アセスメント・介護計画・モニタリングの様式について検討された。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 日々、利用者の方への働きかけなど職員同士話し合いながら、自分達で考え行動できる環境にあり、研修など希望すれば受講することも出来る。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全ての職員は必ず年2回の研修を受けるよう指導され、今この職員に必要なと思われるもの、又は、関心ある事らにおいては選べるようになってきている。又、研修報告を書くことにより、内容の把握、全職員への周知にも繋がっている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡会や、研修会への参加、お祭りや観月会、運営推進会議等の相互訪問などを通じ視野を広め、サービスの向上につなげる様取り組みを行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前にご本人やご家族より今までの暮らしぶりや要望等詳しくお聞きし、入居後の不安を少しでも少なくし安心して頂けるよう努め、又、入居後は、ご本人のちょっとした表情や行動に気を配り、安心していただくような声掛けを心掛けています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) いつご家族が来所されても困っていることなど口に出る、話しやすい雰囲気作りに努め、こちらからもホームでの様子をありのまま伝えられるよう、初期段階より、よりよい関係作りに努力している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人とご家族から現在の状況や、生活歴、今希望されている事柄を詳しく伺い、今必要とされている支援は何かを見極め、その方にあったサービスの内容の説明を行なっている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事全般において一緒に行ったり、出来る事柄においては、近くで見守りし、おまかせして出来る喜びを一緒に共有している。昔ながらの料理や、その家庭によって違う味付けなど教えていただきながら作り、ひとつの家庭のような雰囲気になっている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホーム内での行事への参加呼びかけを行っており、ご本人と一緒に過ごして頂くよう努めている。又、参加して頂いた際、近況報告を行ったり、毎月のポストカードの送付や、手紙、電話等により今の利用者の方の様子をありのままお伝えし、ご家族の方との絆を大切にしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域への行事への参加、日々の散歩や買い物、今まで住んでおられた所へのドライブなど 馴染みの人や場所との関係を大切にしている。又、いつでもホームに訪ねてきて頂けるよう、暖かい雰囲気作りを心掛けている。 (外部評価) ご家族と一緒に行きつけの美容院に行かれたり、農業をされていた利用者の方は、事業所の畑の世話をしてくださっている。又、絵を描くことが好きな利用者は、摘んで来た花を描いて、食堂に飾っておられた。手芸の得意な方は、ストラップや干支の置物を作ったり、本のお好きな方は図書館に本を借りに行かれている。入居間もない頃は「面会に行くと帰りたくなるのではないかと心配するご家族もいるが「できるだけ来ていただいた方が、ご本人の安心につながります」と説明し、お友達にも来ていただけるようお願いされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士の様子を伺いながら、状況に応じて職員が入ったり、離れたったりして関係が円滑になる様に努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用して頂いていた頃と変わらない対応(挨拶、気配りなど)を心がけ、いつでも頼って頂けるような雰囲気作りに努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 直接伺える方には傾聴し、耳が聞こえにくく、話が伝わりにくい場合には筆談やジェスチャーでコミュニケーションを計り、出来る限り希望・意向の把握に努めている。また、本人の生活歴など参考にさせて頂いている。	
			(外部評価) 夜勤時、職員は、利用者と一緒にゆっくりお話ししながらこれまでのことや日々の暮らしの希望等を聞き取っておられ、聴力が弱い利用者とは、筆談やジェスチャー等を交えてコミュニケーションを取るようにされている。	事業所では、アセスメントの様式について「利用者のことがよくわかる様式に替えていきたい」と、現在、検討されている。利用者一人ひとりの思いや意向を把握できるようなアセスメントに工夫され、事業所の理念の実践に向けた支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴や馴染みなことについて、ご本人やご家族にお話を聴かせて頂いたり、今まで利用されていたサービス等でお話を伺わせて頂いたりして、ご本人の暮らしの把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 業務日誌・個別記録に日々目を通し、1日2回の申し送りとは別に、気になる事があればすぐに職員間で話し合い、情報の聞き漏れなどない様に注意し、利用者様の状態・状況を把握するよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) まず、ご本人とゆっくり話し、思いを引き出す様にしている。そしてその思いを念頭に置き、ご家族や知人、職員のアイデア・意見を出し合い、ご本人らしい生活が出来る様な介護計画作成に努めている。また、センター方式導入も検討中である。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、1年ごとに見直すようになってきている。利用者の状態に合わせて自室の掃除、洗濯物干し、食事の支度や片付け等「ご本人のやりたいこと」をサポートできるよう計画されていた。</p>	<p>管理者は、アセスメントを充実させ、利用者一人ひとり「何に重点をおくか」というニーズについて優先順位を付けることや、又、記録、カンファレンス、モニタリングがしやすくなるよう、考えていきたいと話しておられた。さらに利用者個々の現状に即した介護計画の作成に取り組んでいかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別記録表に利用者様の普段の状況・状態が毎日記録されており、ちょっとした変化があった時にも比較しやすくなっている。またその都度、職員間で情報を共有し合える為、現場も戸惑うことなくスムーズに流れることが出来る。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 出来る限りご本人やご家族の希望に添う為、選択支やサービスの範囲を広げるように努めている。例えば、お茶を飲むにしても喫茶店を利用するだけでなく、ご家族のお家や職員の家、公共施設などを利用して頂いている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ボランティアの方や近所の方に避難訓練に参加して頂き、共に助け合い火災の恐ろしさを学んだ。クリスマスには、コーラスにじの方に美しい歌声を披露して頂いたお礼に、職員と共に手作りしたお手玉をプレゼントするなどし、利用者様のやりがいや、感動に繋がった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>かかりつけ医が隣にあり、すぐに相談連絡が取れる状態にある。又、歯科、眼科など本人の希望する病院に受診できる状態にしてある。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>かかりつけ医は、利用者のご家族が決めるようになっており、現在は、全員、母体である協力医に診てもらっている。協力医は、必要に応じて往診があり、365日24時間対応してくれるようになっている。協力歯科医は、毎月訪問診療があり、連絡しておく必要器具を持参して治療していただける。眼科の通院は、ご家族の都合に合わせて職員が同行することもある。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>受診時や隔週水曜日の看護師相談、2ヶ月に1回の看護師研修時などにこまめに利用者の状態を伝えている。日中、夜間共に変わったことがあればすぐに看護師に報告している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院された際は、スタッフが協力し面会に行き少しでも関わりを持つようにしている。誕生日などにはカードなど持って行きプレゼントしている。又、看護師へ、ホームにおられた時の様子を伝えたり、現在の様子を教えてもらったり情報交換を行なっている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日頃から家族の方が来られた際、様子など詳しく話している。遠方の方も電話や手紙などで様子を報告している。又、状態が変わるごとに、かかりつけ医、本人、家族と話し合いを行っている。</p>	<p>利用者個々の終末期の過ごし方の希望等もうかがいながら、ご家族とも、ご本人の暮らしとケアについて話し合い、ご本人にとっての「当たり前」の生活の支援について、事業所でできることを話し合ってみる機会にされてはどうか。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>入居契約時、看取りの指針に基づき説明されている。事業所の看取りの指針には、「数年を過ごした場所で親しい人に見守られ自然な死を迎えられる」と示しておられる。利用者が重度化して入院に至り、病院を退院する際には、法人代表者でもある母体病院の医師とご家族・管理者で話し合い、施設入所も視野に入れて検討されている。経済的な理由もあり、入居時から施設入居を希望されているケースもあるようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 申し送り、ミーティング、看護師研修時に基本的な応急対応等のシュミレーションを行っている。又、事故、ひやりハット等起きるとその事についての話し合い、シュミレーションを徹底して行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月、2ユニット別避難訓練を実施している。(職員が毎回同じ動作の訓練を行なうことにより流れを体で覚え、いざという時に慌てない様シュミレーションを行っている。)年2回は地域の方に協力して頂き消防訓練を行なっている。	
			(外部評価) 年に3回の避難訓練では、消防署や運営推進会議のメンバー、ボランティアの方、地域の方等も参加いただき、夜間想定で実施されている。隣に住む法人代表者が、いざという時には、駆け付けるようになっている。津波の場合は山が遠いこともあり、まずは事業所の2階へ上がることに決めている。避難訓練時、地域の方には、避難した利用者を見守っていただくようお願いされている。次回は「東日本大震災の情報を基にして避難訓練を行いたい」と消防署に協力をお願いされている。管理者は「今後さらに職員が冷静に行動できるよう、訓練を重ねていきたいと話しておられた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレの際の声掛けなど他者に気付かれにくい声掛けの仕方(筆談・小声)を行っている。面会や電話の際は希望のある方は、プライバシーを尊重し居室に案内するなどしている。	
			(外部評価) ホーム便りの記事や写真の掲載等の取り扱いについては、入居契約時に利用者やご家族の了解を得るようにされている。市社協の広報に事業所のカラオケボランティア時の様子が掲載され際には、事前にご家族にお話をして了解を取られた。時には、利用者間のトラブルもあるようだが、両方のプライドを傷付けたくないような解決に努め、職員はトラブルが起こりそうな時には、仲に入り注意深くかわるようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から親しみを持ってもらえるような関係作りをしており、素直な気持ち、希望、わがまま何でも言いやすい様な環境作りをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 昔ながらの一日のリズムを大切にする為一人ひとりの生き 方をアセスメントし、昔から楽しみにしていた事を希望によ って取り入れていく。時にはドライブ、買い物も希望によって取 り入れる。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) その人らしい衣服をご本人、家族等から聞くなどして把握す るよう努めている。衣替えの頃には、家族から服を届けて頂 いたり、職員と一緒に買い物に行ったりとかの支援をしてい る。季節に合わせた服を自ら選択できる様に声掛けをしたり 工夫している。美容室は馴染みの店に行くなどしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 栄養士が立てた献立をもとに毎食、食事の準備など職員と 一緒にして頂いている。また庭の畑の新鮮な野菜を採ったり 旬の物をたくさん取り入れるようにしている。食後の片付けも 一緒に手伝って頂いている。 (外部評価) 自ら調理にかかわってくださる利用者も数名おられ、餃子や 巻きずし作りは手早く作業をしてくださるようだ。畑の野菜や 旬の食材を使うように心がけておられ、調査訪問時には、畑 で採れたほうれんそうを使った白和えが食卓に上っていた。 食事量の制限がある方は、他の方と比べて差を感じないよ うな、盛り付けや材料で工夫されている。誕生日には、ご本人 のお好きな物を用意して、皆で万歳三唱をしてお祝いされて いる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事チェック表をもとに食事量、水分量等本人の摂取量を 把握し、その量を支援している。また、一度に食べられない 方には、量を調節して回数を増やしたりと工夫している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎月、協力歯科医療機関の歯科医師、歯科衛生士が来所 し、口腔内の指導等、職員に行っている。歯磨きの難しい方 には、誘導し、職員が歯磨きティッシュ、スポンジ歯ブラシ等 を用いて介助し、口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表に排泄時間をつけ一人ひとりの排泄パターンを把握する。時間等空いていればその都度声掛けにてトイレ誘導を行なう。また出来る限り本人のペースに合わせ自立に向けた支援を行っている。</p> <p>(外部評価) ご自分でトイレに行かれる方が多く、ご自分で尿取りパッドを新聞紙に包んで、トイレの所定の容器に入れてくださる方もいる。職員がトイレに誘い、排泄を行っていた利用者が入院され、入院中は排泄の失敗が続き、全介助状態になったようである。退院後は、ご本人の状態をみながら、再度トイレで排泄できるような支援を続けておられる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表をもとに個々に合った便秘予防を行っている。冷たい牛乳、食物繊維の多い食品、ヨーグルト、リンゴ等を取り入れている。それによって自然排便を促すように日々支援をしている。ラジオ体操等の運動も取り入れている。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 個々の入浴希望を聞き、ゆっくりと時間をかけて入浴支援をしている。浴槽の中には入浴剤やゆずなど四季折々のものを取り入れて工夫している。本人の体調や精神状態に合わせて時間をずらしたりと支援をしている。</p> <p>(外部評価) 脱衣所のカーテンが床上20cm位の長さだったが、利用者から「足元が寒い」という意見があり、カーテンの長さを下げて改善された。午前中、入浴する方が多く、一人で入る方は、時々外から声をかける等されている。「今日は入らん」と言われた場合は、無理強いせず、次の日に誘うようにされている。以前、利用されていたデイサービスでは入浴を拒否していた方も、事業所ではすんなりと入浴される等、浴槽や浴室が一般家庭のような雰囲気に安心されるようである。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせて、日中はソファで横になってもらったり、天気の良い日には外のベンチでゆったりしてもらったりと工夫をしている。また眠れない方は日中に散歩やラジオ体操等をして活動量を上げ、就寝前には足浴、マッサージをしたりして安眠支援に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は一人一人の服薬を理解している。事務所内に服薬リストがあり、いつでも確認出来る様にしている。服薬の際には、ご本人の薬であることを確認し、薬の内容も本人に伝え服薬の支援をしている。自力での服薬が難しい方には介助している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の生活歴を参考に食事の準備、洗濯物干し及び洗濯物たたみ、般若心経の読経、編み物、絵画などを楽しみながら継続できる様に支援している。さらに買い物に行ったり、ボール投げや体操などを行い、気分転換できるように支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 庭のベンチで日向ぼっこをしたり、散歩やドライブなど一人一人の状態や希望により出掛けている。また地域の清掃や七夕祭りにも積極的に参加をし、城川かまぼこ板の展覧会、お墓参りなど家族の方にも協力して頂き出掛けている。 (外部評価) 法人内の福祉施設と合同で花見に出かけたり、納涼祭に利用者全員で参加されている。又、お弁当を持って、かまぼこ板展覧会に出かけたこともある。利用者のレベルに合わせて、少人数で、散歩されたり、個々の希望で、図書館、和菓子屋、以前から行きつけの衣料品店で洋服を買ったり、スーパーやコンビニ、寿司屋等にも行かれ、コーヒーが好きな方は、お気に入りの喫茶店ができていようだ。利用者ご本人の希望で、職員と、ご自宅の庭の草引きをされることもあり、近所の知人の方が「よい取り組みですね」と声をかけてくださったこともある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人一人の力に応じて、お金の所持の支援をしている。買い物の際の代金支払い等は、出来る限りご本人にして頂き、職員は傍らで見守り、その時の状態により支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙など利用者の希望によって支援している。手助けが必要な場合は、職員がお手伝いをする様にしている。毎月、ご家族に送付している近況報告には可能な限りご自身で一言記入できる様支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間のテレビ音や室内照明、日差しの明るさに気をつけている。季節の花を飾ったり、居間や廊下の壁面には利用者と一緒に作成した季節に応じた作品を飾っている。	
			(外部評価) 玄関や廊下に大きな絵画が飾られており、利用者が作ったひな人形や皆さんの合作の切り絵が飾られていた。事業所内のあちこちの窓を少しづつ開けて、換気に配慮されていた。駐車場の一角に畑を作っておられ、高菜やネギ、水菜等いろいろな野菜を職員と利用者ボランティアの方の協力を得て、作っておられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間では、ソファを置き、誰でもゆっくり過ごせる様にしている。新聞や雑誌も置き、自由に読めるようにしている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、ご本人が作られた小物や家族写真、イベントの際の写真など飾ったり、今まで使われていたタンスや仏壇、テレビなどを持ち込み、過ごしやすくしている。	
			(外部評価) タンスやテレビ・洋服掛けを持ち込まれている方も見られる。荷物が気になって混乱の原因になるような方もいるが、クローゼットの中を利用して写真等を飾る等されていた。仏壇を持ち込んでいる方もおられ、ご家族がお供え物を買って来られたり、亡夫の位牌に毎日水をあげる方もおられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の力を把握し、混乱や失敗を防げるよう目印としてトイレの入口にはプレート、浴室には暖簾をかけている。また、居間・廊下・浴室・トイレには手すりがあり、段差もない為、安全で自立した生活が送れるようになっている。	